



歴史を胸に

町立萩野小学校開校100周年 新たな一歩へ

情報ノート

同校は大正10（1921）年、敷生尋常高等小学校知床特別教授場として開設されました。昭和55（1980）年には児童数987人の大規模校となり、これまで6,200人を超える卒業生を輩出してきました。11月13日には、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した記念式典を同校で催し、教職員と児童、PTA、地域など関係者が同校の歴史を振り返りながら一世紀の節目を祝いました。会場の体育館には全校児童132人のうち6年生が出席しましたが、5年生以下は各教室でリモートで観覧参加しました。



初めに開校100周年記念事業協賛会の小嶋孝之会長が「100周年を一節と考え、新たな心で将来を展望し、21世紀を担う子どもたちの学び場として発展を」とあいさつをしました。



戸田安彦町長は動画で祝辞を贈り、何をするにも、小さなことにも目的、目標を持つことの大切さを語り、「輝かしい未来をつくってください」と激励しました。

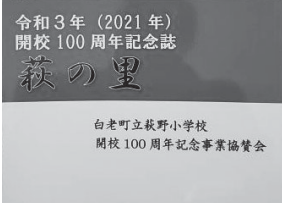
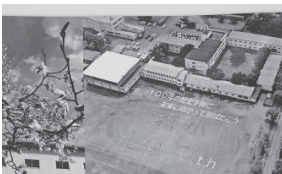


3世代が同校で学んだ6年生の小畑咲君が児童を代表して、コロナ禍による制限のつらさを漏らしながらも「友達と話したり、怒ったり、泣いたりできる学校っていいなあと思います。これからもたくさんの笑い声が校舎や校庭に響くように、一日一日を大切に、支えてくれる人たちに感謝しながら次の100年につながる一歩にしたい」と力強く話しました。



式典あいさつを受け田村雅嘉校長は「これからの100年に向けた新たな一歩。保護者や地域の信頼を得、学校としての責任を果たしていきたい」と誓いました。

記念事業として「校区守る会」「萩野・北吉原青少年育成協議会」「放課後学習ボランティア」「日本製紙白老工場」など各団体と、長年の登下校の見守りとあいさつ運動に貢献した3個人に感謝状を贈り、関係者や地域の支えをたたえました。



歴史を振り返る記念誌「萩の里」完成

協賛会の記念事業としてPTA広報部の父母らが中心となり製作した労作です。119頁、カラー。用紙は日本製紙白老工場から寄贈を受けました。

先人、先輩たちの足跡を振り返る「本校100年の歩み」は、学校沿革史に合わせ古い貴重な写真をふんだんに使用しています。旧職員と卒業生による「在りしの思い出」も、「萩小」で過ごした日々の懐かしさがいっぱいです。

児童らは行事や日々の授業の写真を添え、全員が「将来の夢」「10年後の自分へ」と題した文を寄せました。ほのぼのとした楽しい内容ですが、一人ひとりの決意や希望が詰まっています。

開校100周年を迎えた萩野小学校に 節目祝い寄付

卒業生の
「ケイホク」高山さん

から

卒業生の
田村校長

に

株式会社ケイホク（高山海晋代表取締役会長）が、同小（田村雅嘉校長）に100万円を寄付しました。高山会長をはじめ、会長の兄弟や子どもたち家族らも代々同校の卒業生ということから、「恩返しをしたい」と善意を寄せました。同社の高山長基取締役社長が姉弟、いところ同校を訪れ、「大きな節目の年に卒業生として何かお役に立てれば」と手渡しました。「私も同校卒業生です」と誇らしげに語る田村校長は「教師生活最後の年に母校の100周年を迎えられ感無量です」と感謝を述べました。（11月1日）

